

食の安全意識調査報告書



令和2(2020)年7月

栃木県保健福祉部生活衛生課

目次

I 概要	1
II 調査結果	3
III 参考データ	54
IV 考察	62

I 概要

1 調査目的

県民の食の安全に対する意識や食の安全対策への要望等を把握するためにネットによりアンケートを実施しました。

今回のアンケート結果については、食の安全を守る取組を推進するに当たり、今後の食の安全に係る施策に反映するための基礎資料として、また、とちぎ食の安全・安心・信頼性の確保に関する条例（平成 18 年栃木県条例第 39 号）に基づく、とちぎ食の安全・安心・信頼性の確保に関する基本計画の策定の際などに活用させていただきます。

2 調査設計

とちぎネットアンケート

(1) 調査対象者

とちぎネットアンケート協力者(令和2(2020)年度第1回アンケート対象者) 368 名

(2) 調査方法

電子メールによる配布及び電子申請による回答

(3) 調査期間

令和2(2020)年 4 月 20 日～5 月 3 日

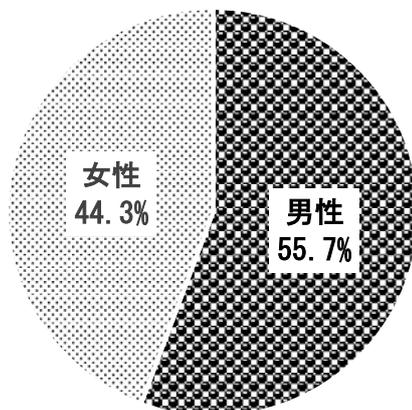
3 回収結果

とちぎネットアンケート協力者(令和2(2020)年度第 1 回アンケート対象者) 368 名中 237 名が回答

回収率 64.4 %

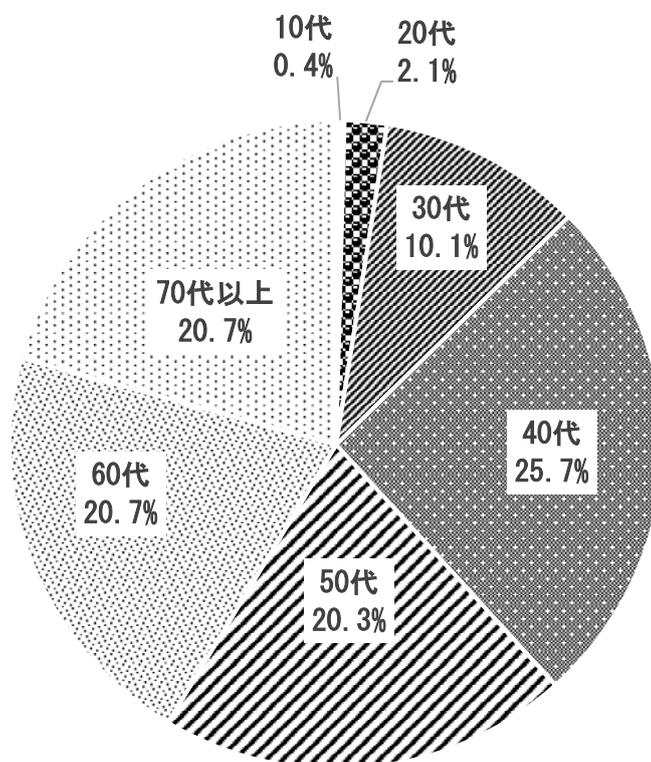
(1) 男女別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
男性	132	55.7
女性	105	44.3
全体	237	100.0



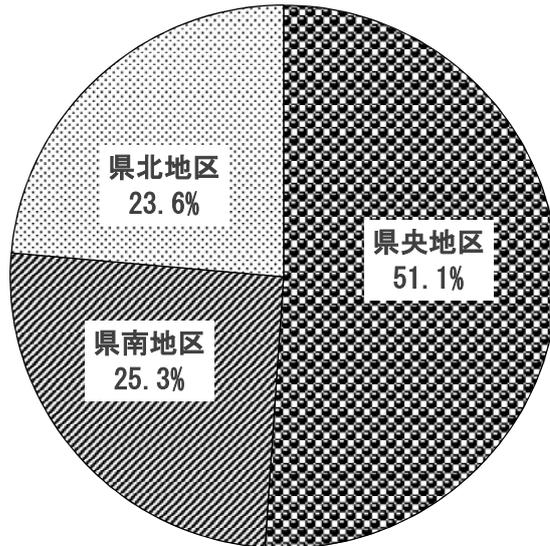
(2) 年代別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
10代	1	0.4
20代	5	2.1
30代	24	10.1
40代	61	25.7
50代	48	20.3
60代	49	20.7
70代以上	49	20.7
全体	237	100.0



(3) 地域別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
県央地域	121	51.1
県南地域	60	25.3
県北地域	56	23.6
全体	237	100.0



なお、地域の区分は、次のとおり分類している。

地域名	該当市町名	人口比率 (県人口 1,976,121 /H31.1.1 現在)
県北地域	那 須 (大田原市、那須塩原市、那須町) 日 光 (日光市) 塩 谷 (矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町) 南那須(那須烏山市、那珂川町)	23.2% (457,978)
県央地域	宇都宮(宇都宮市、上三川町、壬生町) 鹿 沼 (鹿沼市) 芳 賀 (真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町)	42.3% (835,783)
県南地域	小 山 (小山市、下野市、野木町) 栃 木 (栃木市) 両 毛 (足利市、佐野市)	34.5% (682,360)

4 報告書の見方

- (1) 本文に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。そのため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)の百分率(%)の合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答(2つ以上選ぶことができる設問)は、百分率(%)の合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合があります。

5 とちぎネットアンケート

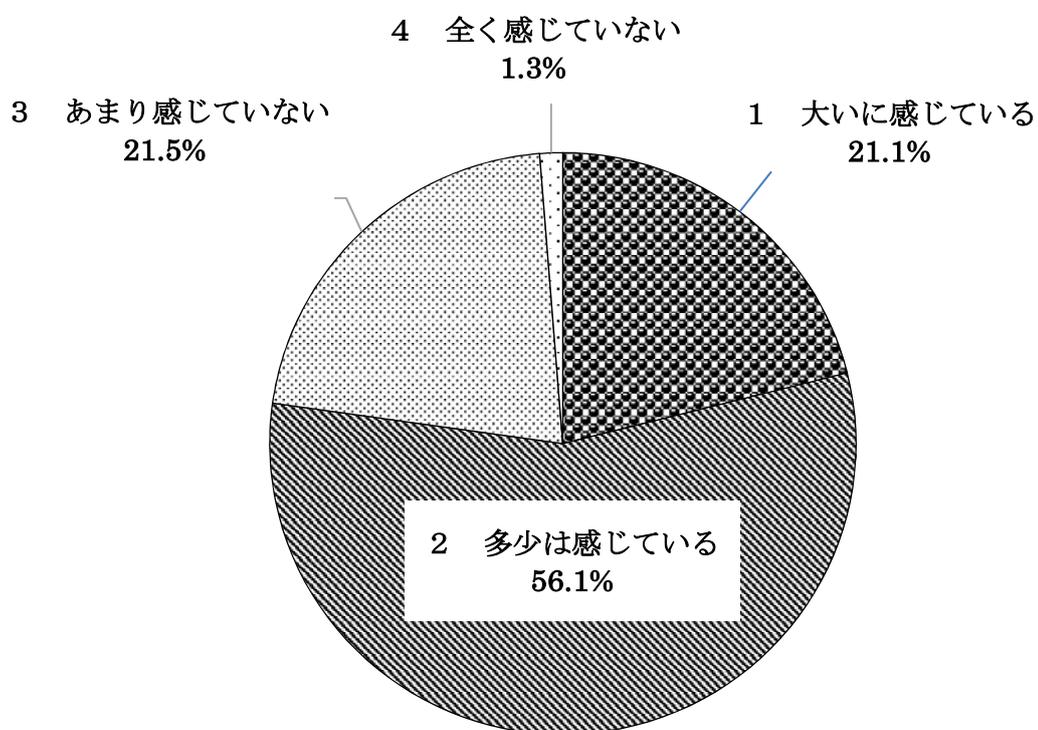
インターネットを活用してアンケートを実施し、県民の意識傾向やニーズを把握して県政に活かすことにより、協働による県政の推進を図ることを目的として実施しています。

なお、アンケート協力者は、県内在住の満16歳以上の方で、インターネットのウェブサイトの閲覧、日本語による電子メールの利用が可能な方で、国または地方自治体の議員、常勤の国家公務員、教員を除く、常勤の栃木県職員は登録されていません。

II 調査結果

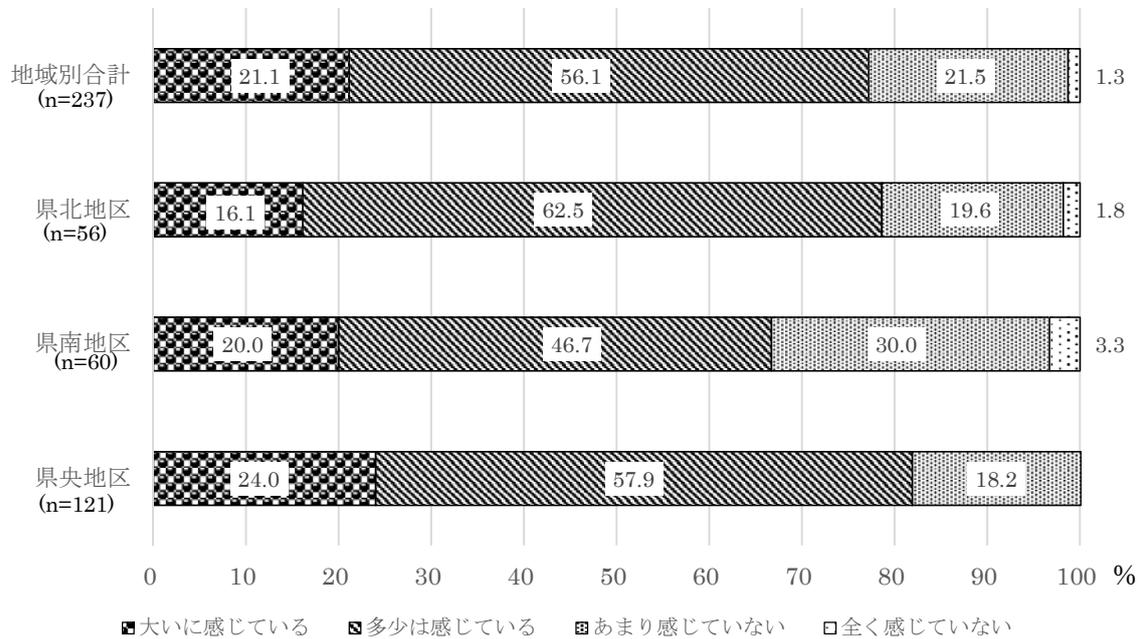
【問1】あなたは、食の安全について、不安を感じていますか。(n=237)

1 大いに感じている	21.1%
2 多少は感じている	56.1
3 あまり感じていない	21.5
4 全く感じていない	1.3



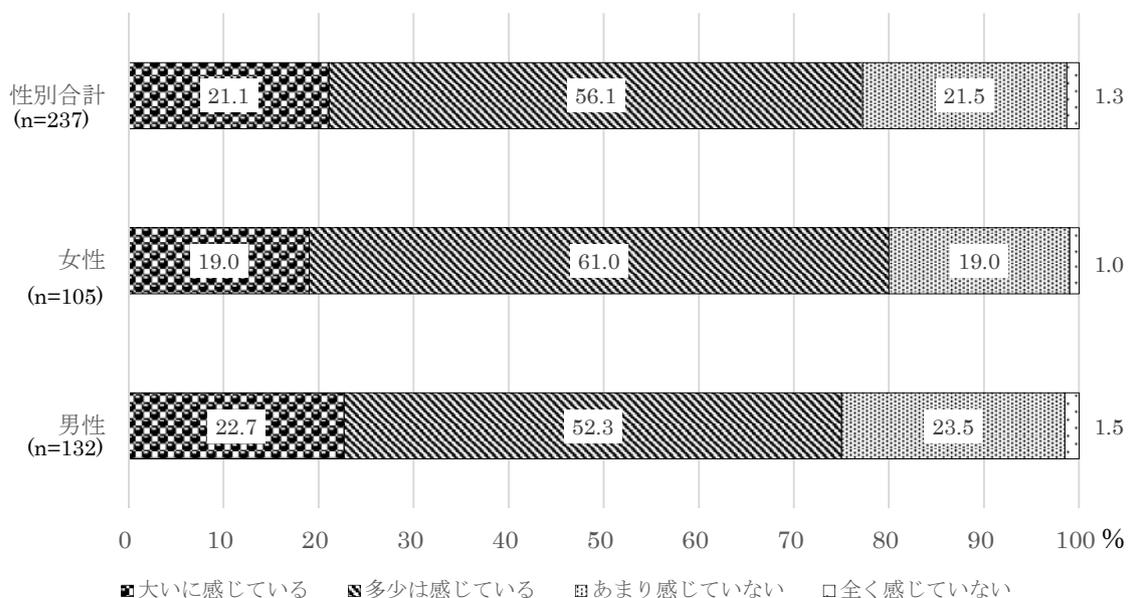
- ・食の安全について、全体で見ると「多少は感じている」が56.1%で最も多く、次いで「あまり感じていない」が21.5%、「大いに感じている」が21.1%、「全く感じていない」が1.3%であった。
- ・食の安全について、「大いに感じている」と「多少は感じている」の2つを合わせた「感じている」は77.2%であった。また、「あまり感じていない」と「全く感じていない」の2つを合わせた「感じていない」は、22.8%であった。

地域別



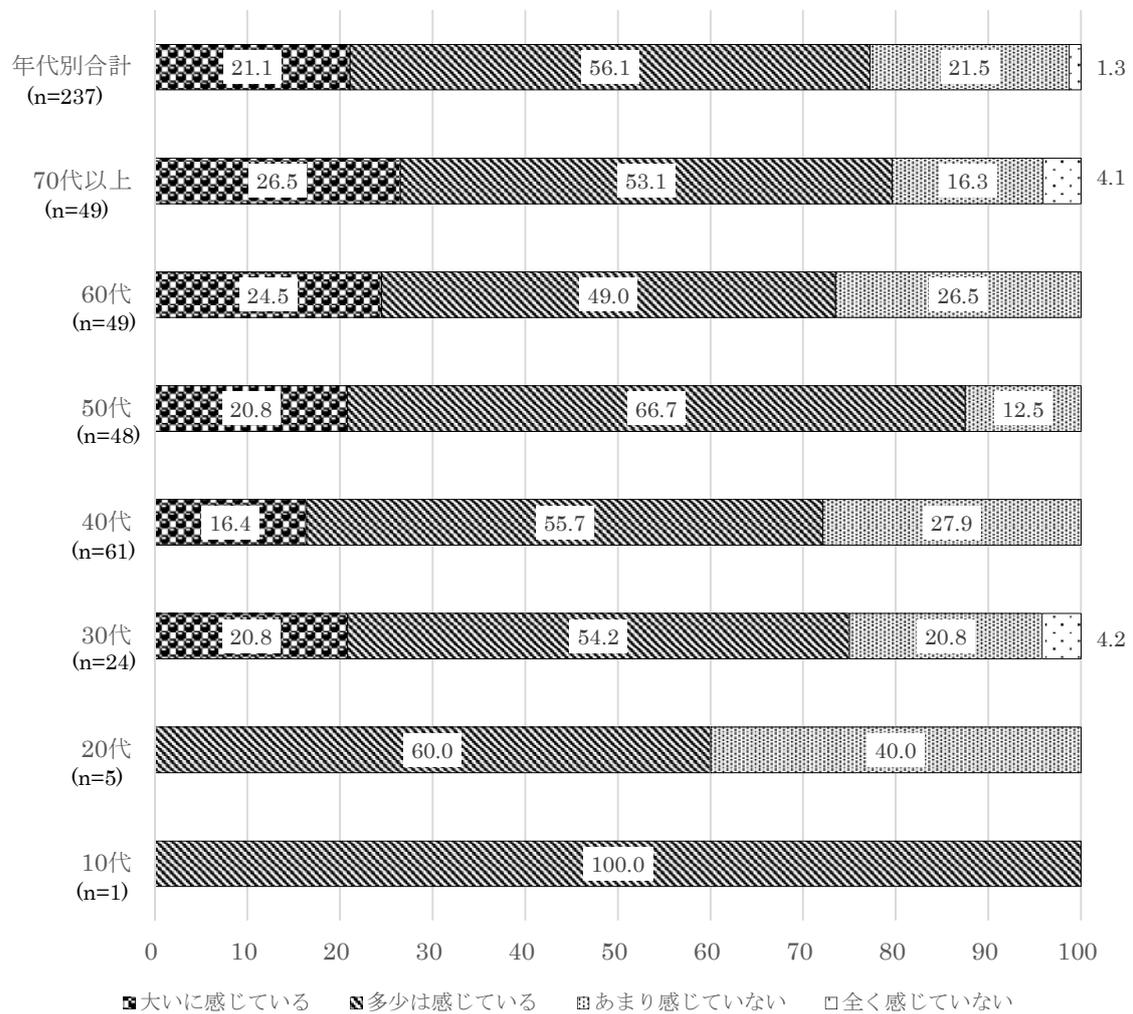
- ・地域別でみると、県央地区では「大いに感じている」、「多少は感じている」の2つの合計は81.9%であり、県北地区の78.6%、県南地区の66.7%と比べて高かった。
- ・県南地区では「あまり感じていない」、「全く感じていない」の2つの合計は33.3%であり、県北地区の21.4%、県央地区の18.2%と比べて高かった。

性別



- ・性別でみると、女性で「あまり感じていない」、「全く感じていない」の2つの合計は20.0%であり、男性（25.0%）と比べ5ポイント低かった。

年代別



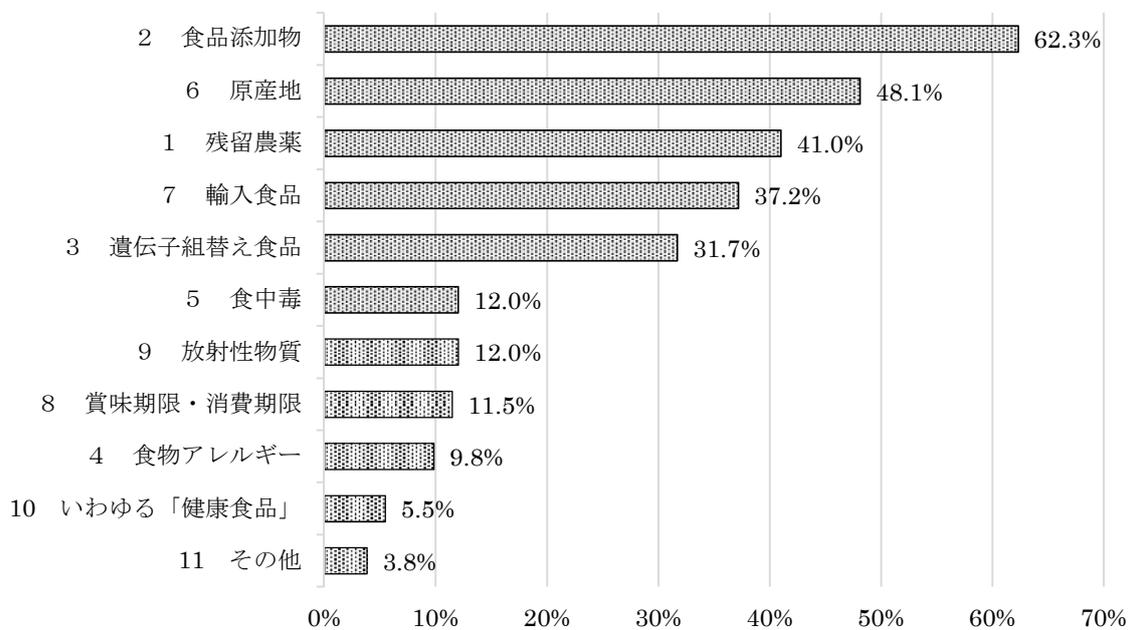
- ・年代別でみると、「大いに感じている」は、40代が16.4%、50代が20.8%、60代が24.5%、70代以上が26.5%と年代を増すごとに高くなっている。
- ・50代は「大いに感じている」、「多少は感じている」の2つを合わせて87.5%と最も高く、次に70代以上が79.6%であった。

*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

(【問1】で選択肢1、2を選んだ方にお聞きします。)

【問2】あなたは、食の安全性のどのような部分に不安を感じていますか。(3つまで選択可) (n=183)

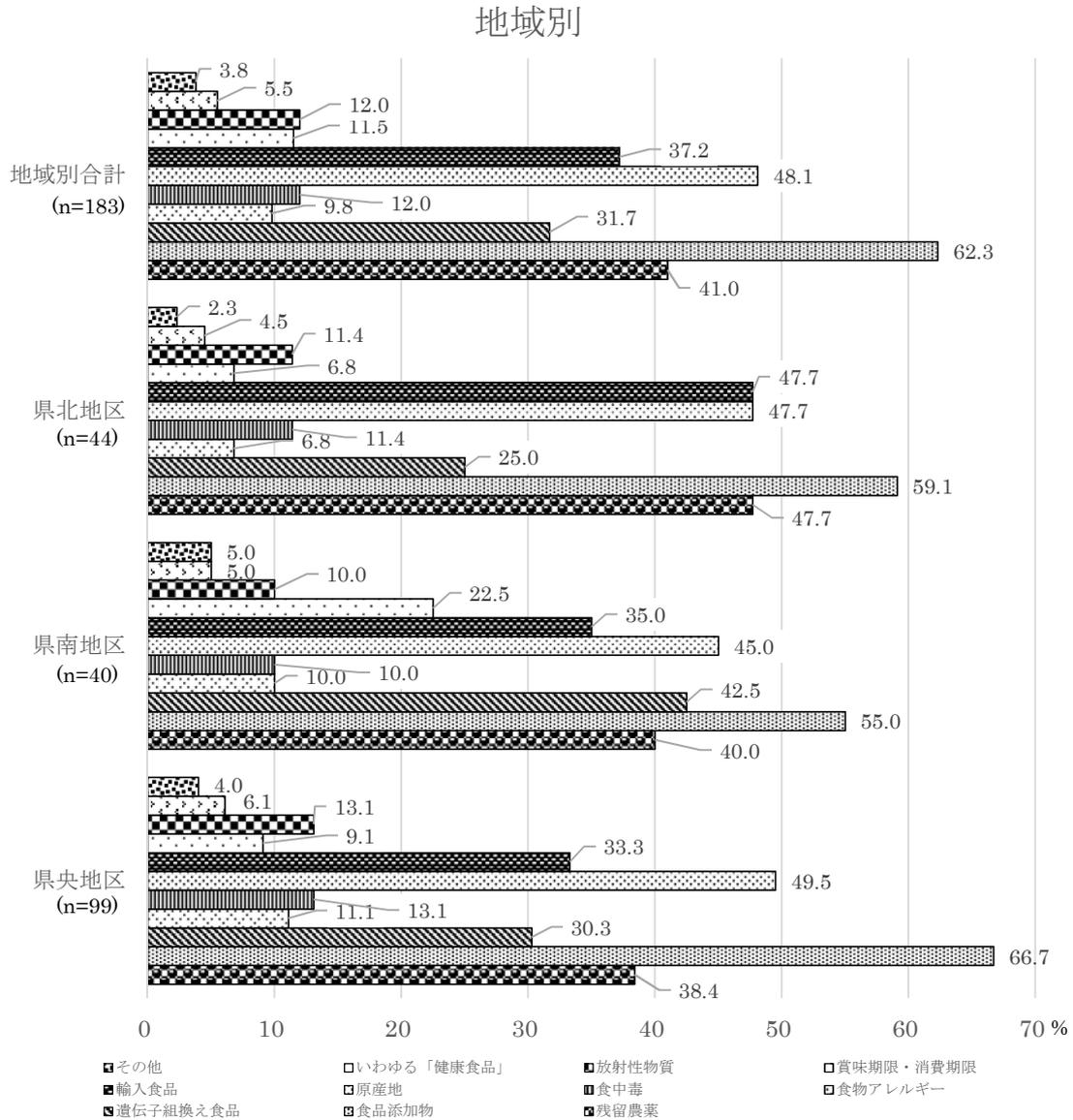
1	残留農薬	41.0%
2	食品添加物	62.3
3	遺伝子組換え食品	31.7
4	食物アレルギー	9.8
5	食中毒	12.0
6	原産地	48.1
7	輸入食品	37.2
8	賞味期限・消費期限	11.5
9	放射性物質	12.0
10	いわゆる「健康食品」	5.5
11	その他	3.8



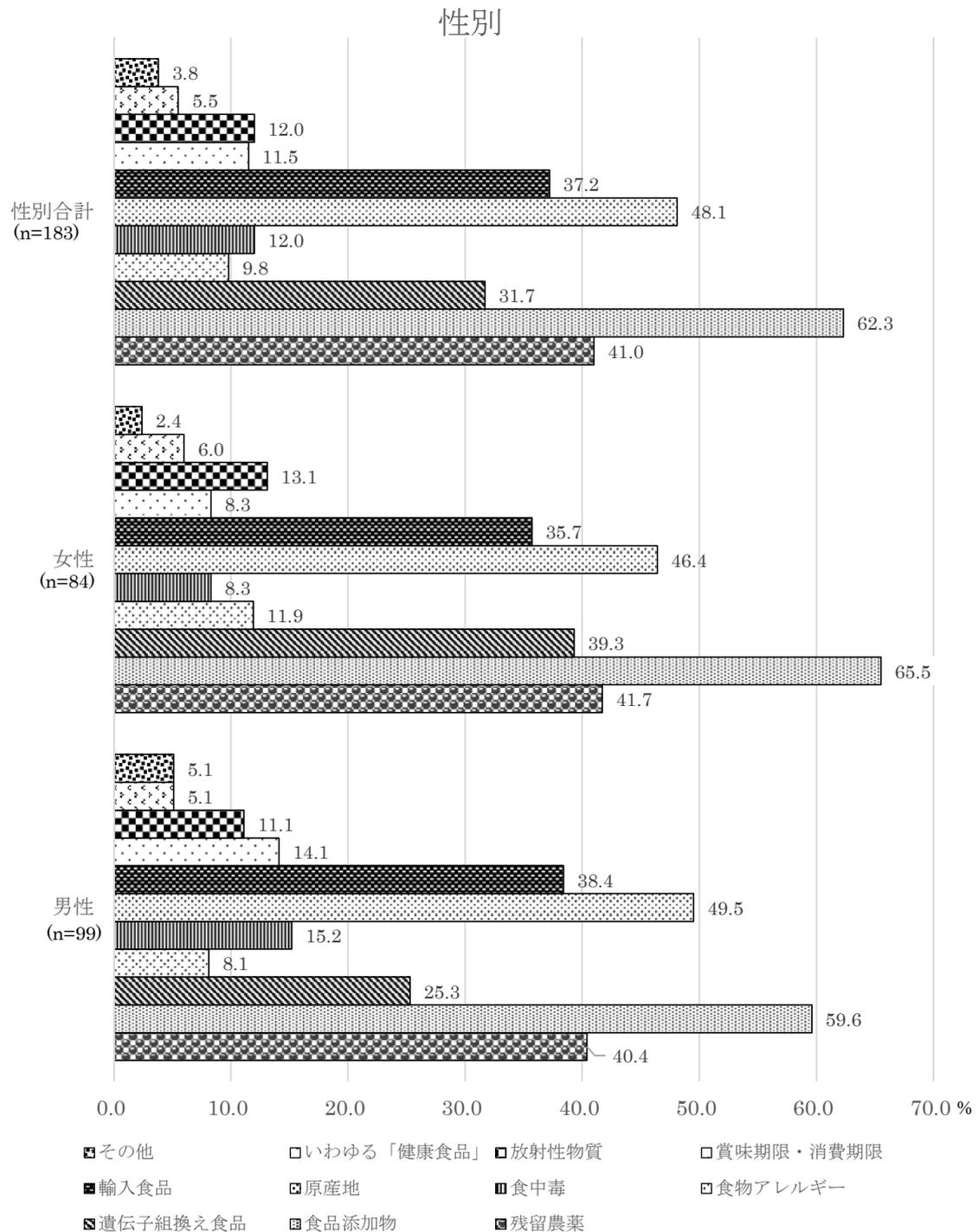
[その他の主な意見]

・ウイルスについて【2名】

- ・食の安全性のどのような部分に不安を感じているかについて、全体で見ると、「食品添加物」が**62.3%**で最も高く、次いで「原産地」(**48.1%**)、「残留農薬」(**41.0%**)、「輸入食品」(**37.2%**)、「遺伝子組換え食品」(**31.7%**)の順となった。

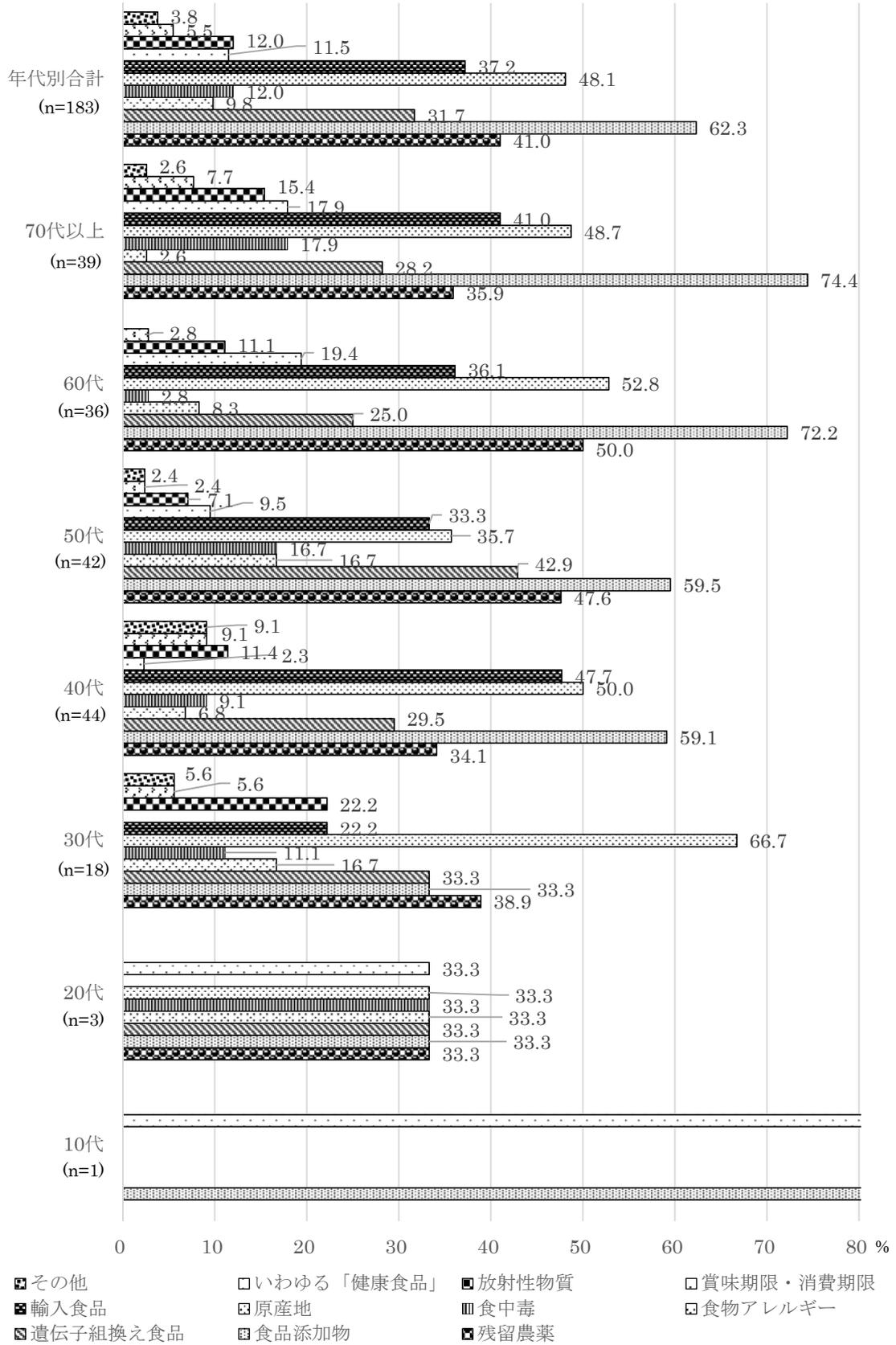


- ・県央地区では「食品添加物」が**66.7%**と、県北地区の**59.1%**、県南地区の**55.0%**と比べ高かった。
- ・地域別で見ると、県北地区では「残留農薬」が**47.7%**と、県南地区の**40.0%**、県央地区の**38.4%**と比べ高かった。
- ・県北地区では「輸入食品」が**47.7%**と、県南地区の**35.0%**、県央地区の**33.3%**と比べ高かった。
- ・県南地区では「賞味期限・消費期限」が**22.5%**と、県北地区の**6.8%**、県央地区の**9.1%**と比べ高く、「遺伝子組換え食品」が**42.5%**と、県北地区の**25.0%**、県央地区の**30.3%**と比べ高かった。



- ・性別でみると、女性では「食品添加物」が 65.5%と男性（59.6%）と比べ 5.9 ポイント高く、「遺伝子組換え食品」が 39.3%と男性（25.3%）と比べ 14 ポイント高かった。
- ・男性では「食中毒」が 15.2%と女性（8.3%）と比べ 6.9 ポイント、「賞味期限・消費期限」が 14.1%と女性（8.3%）と比べ 5.8 ポイント高かった。

年代別



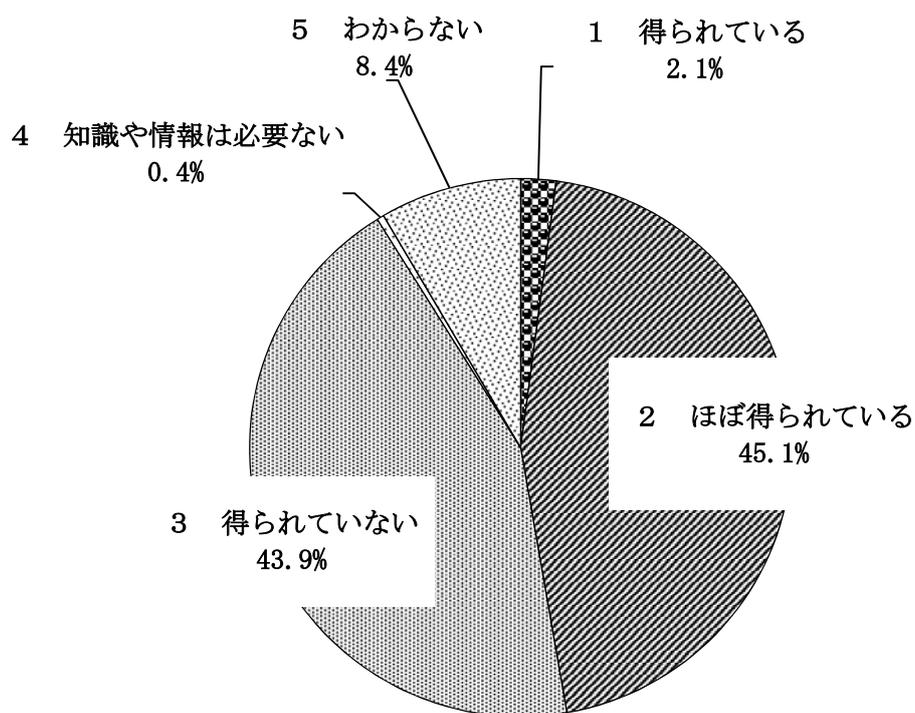
- ・年代別でみると「食品添加物」は30代が33.3%、40代が59.1%、50代が59.5%、60代が72.2%、70代以上が74.4%と年代を増すごとに高くなっている。
- ・「原産地」は30代が66.7%と最も高く、60代が52.8%、40代が50.0%と高い傾向が見えたが、50代では35.7%と最も低かった。

*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めませんが、年代別のコメントは控えています。

【問3】あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると思いますか。

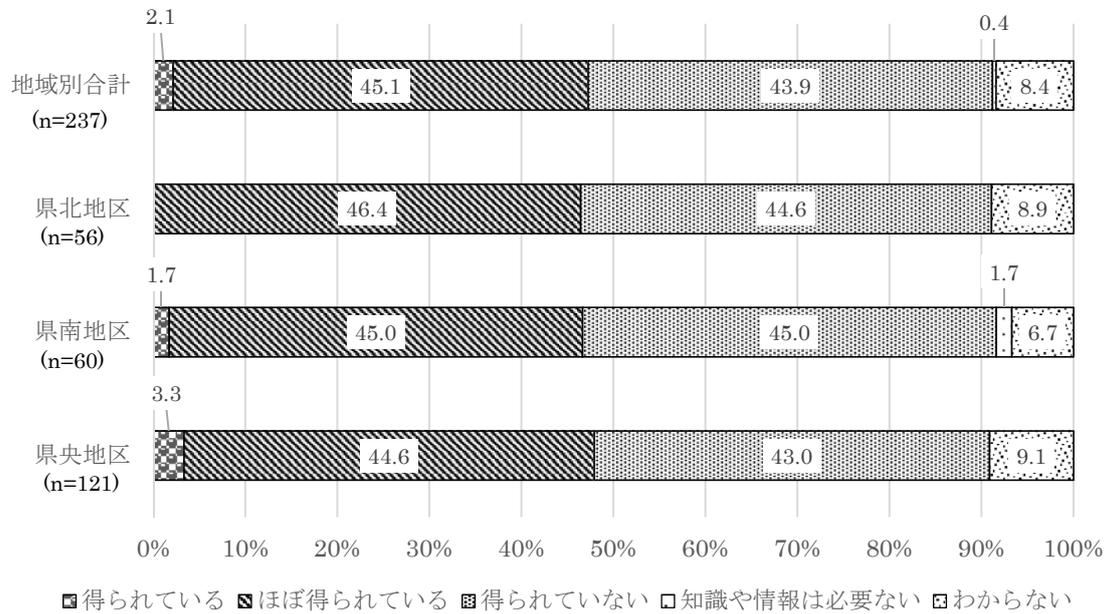
(n=237)

1	得られている	2.1%
2	ほぼ得られている	45.1%
3	得られていない	43.9%
4	知識や情報は必要ない	0.4%
5	わからない	8.4%



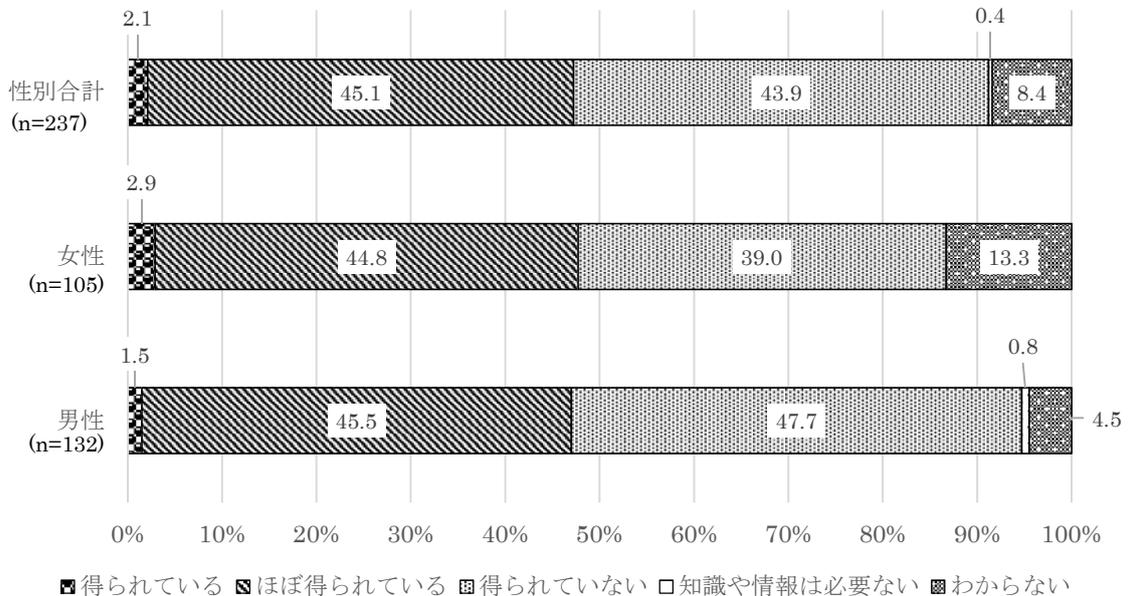
・食の安全に関する正しい知識や情報を得られているかについて、全体でみると「得られている」の2.1%、「ほぼ得られている」の45.1%を2つ合わせた「得られている」は、47.2%であった。一方、「得られていない」が43.9%であった。

地域別



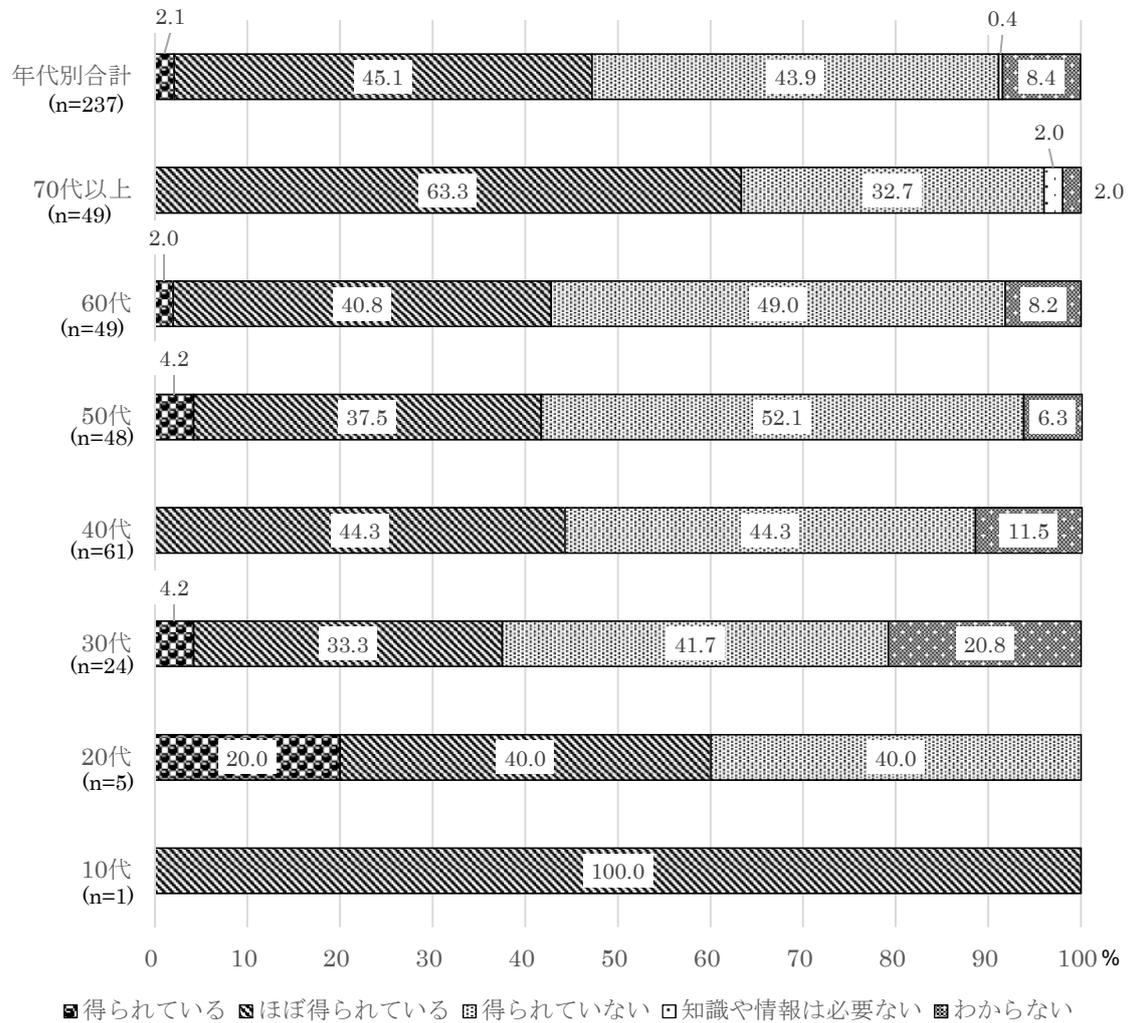
・地域別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

性別



・性別でみると、男性でのみ「知識や情報は必要ない」が0.8%であった。

年代別



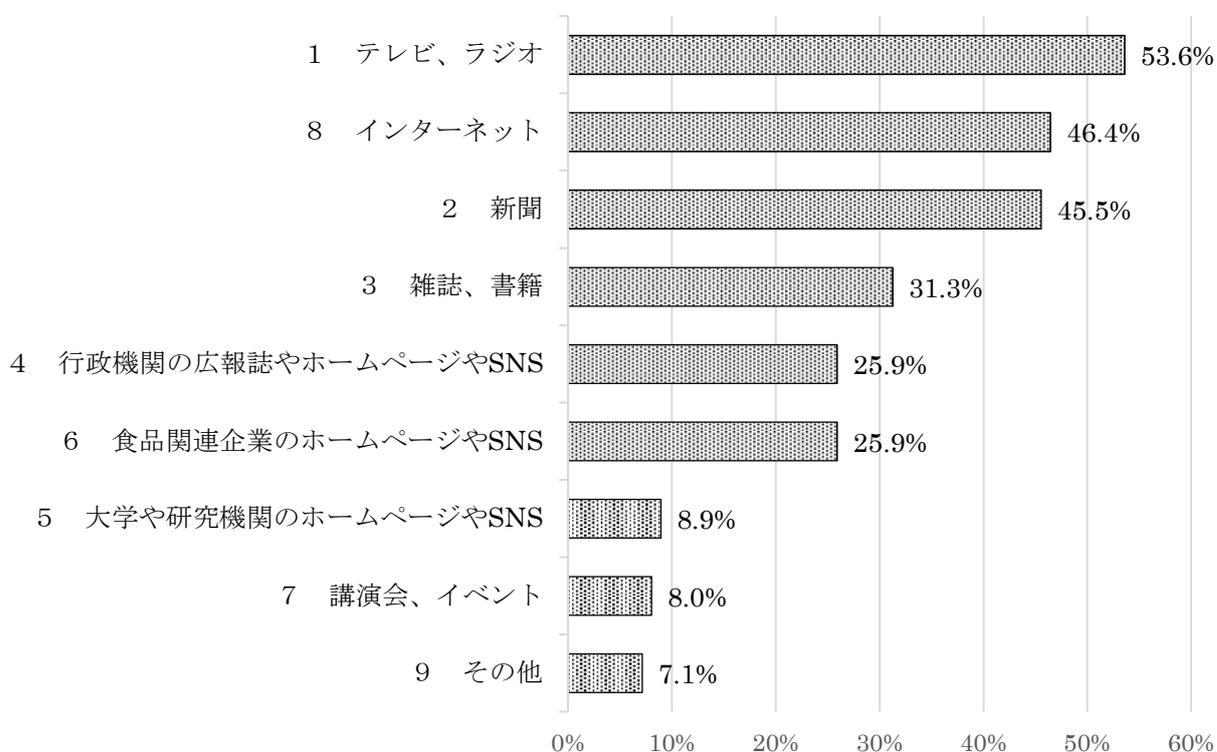
- ・年代別でみると「ほぼ得られている」が70代以上（63.3%）で最も高かった。
- ・「得られていない」は50代（52.1%）、60代（49.0%）が他の年代と比べ高かった。

*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

(【問3】で選択肢1、2を選んだ方にお聞きします。)

【問4】あなたは、食の安全に関する情報をどこから手に入れていますか。(3つまで選択可) (n=112)

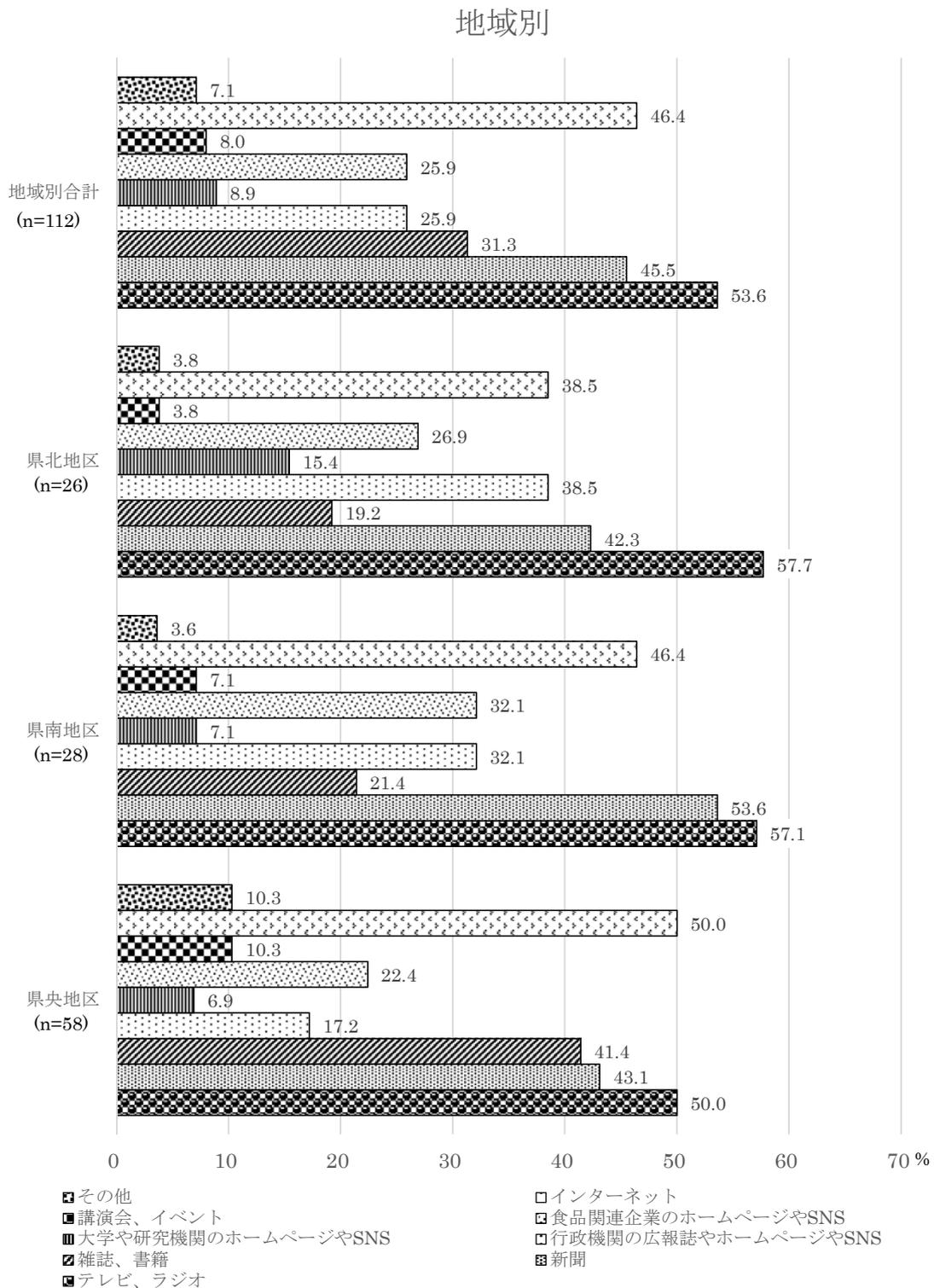
1	テレビ、ラジオ	53.6%
2	新聞	45.5
3	雑誌、書籍	31.3
4	行政機関の広報誌やホームページやSNS	25.9
5	大学や研究機関のホームページやSNS	8.9
6	食品関連企業のホームページやSNS	25.9
7	講演会、イベント	8.0
8	インターネット	46.4
9	その他	7.1



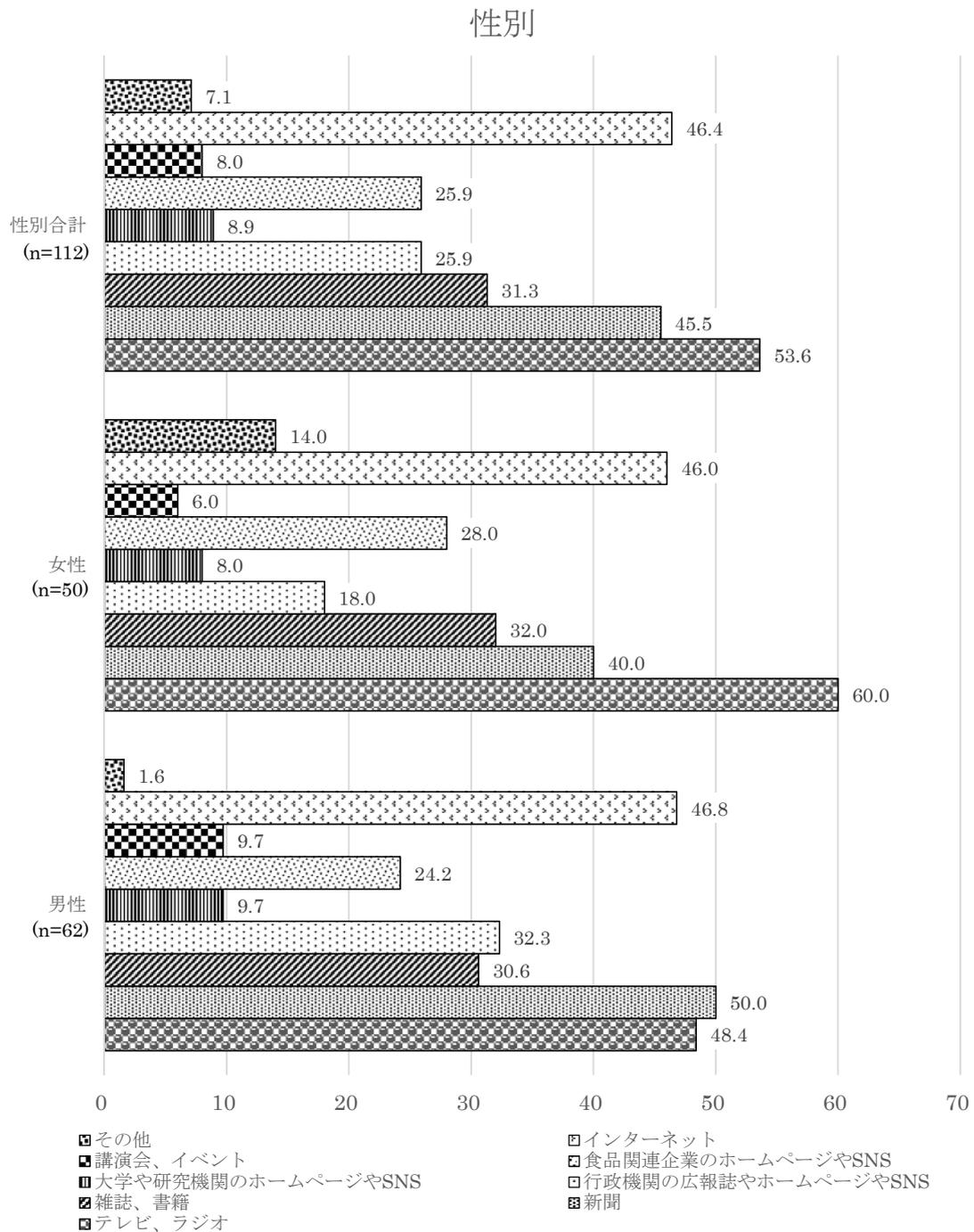
[その他の主な意見]

- ・加盟団体から【3名】
- ・かかりつけ医から【2名】

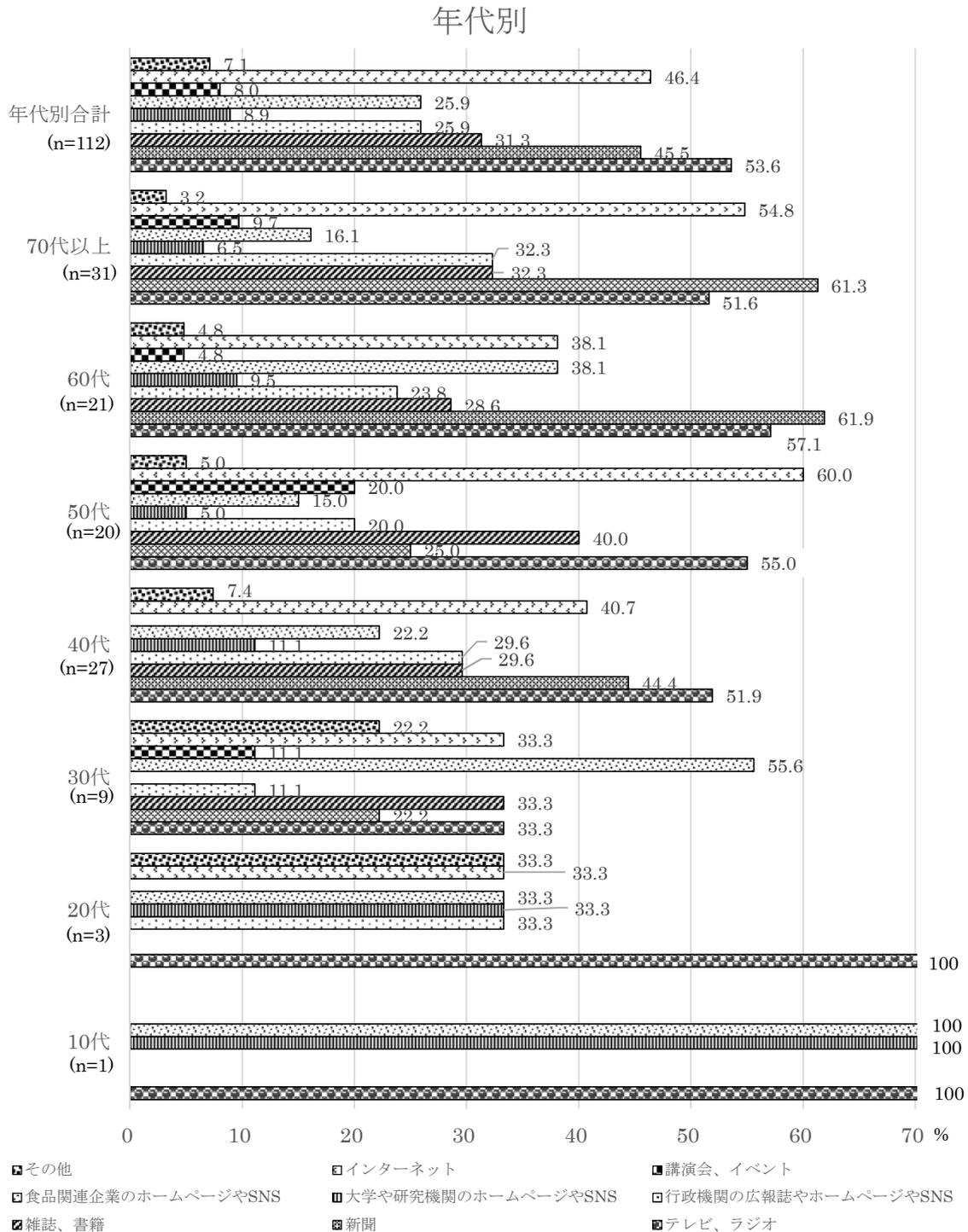
・食の安全に関する情報をどこから入手しているのかについて、全体でみると「テレビ、ラジオ」が 53.6%と最も高く、次に「インターネット」(46.4%)、「新聞」(45.5%)、「雑誌・書籍」(31.3%) の順となった。



- ・地域別でみると、県北地区では「行政機関の広報誌やホームページやSNS」が38.5%と、県南地区の32.1%、県央地区の17.2%と比べ高かった。
- ・県南地区では「新聞」が53.6%と、県北地区の42.3%、県央地区の43.1%と比べ高く、「食品関連企業のホームページやSNS」が32.1%と、県北地区の26.9%、県央地区の22.4%と比べ高かった。
- ・県央地区では「インターネット」が50.0%と、県北地区の38.5%、県南地区の46.4%と比べ高かった。



- ・性別でみると、女性では「テレビ、ラジオ」が60.0%と、男性（48.4%）と比べ11.6ポイント高く、また「雑誌、書籍」が14.0%と、男性（1.6%）と比べ12.4ポイント高かった。
- ・男性では「行政機関の広報誌やホームページやSNS」が32.3%と、女性（18.0%）と比べ14.3ポイント高く、「新聞」が50.0%と、女性（40.0%）と比べ10.0ポイント高かった。

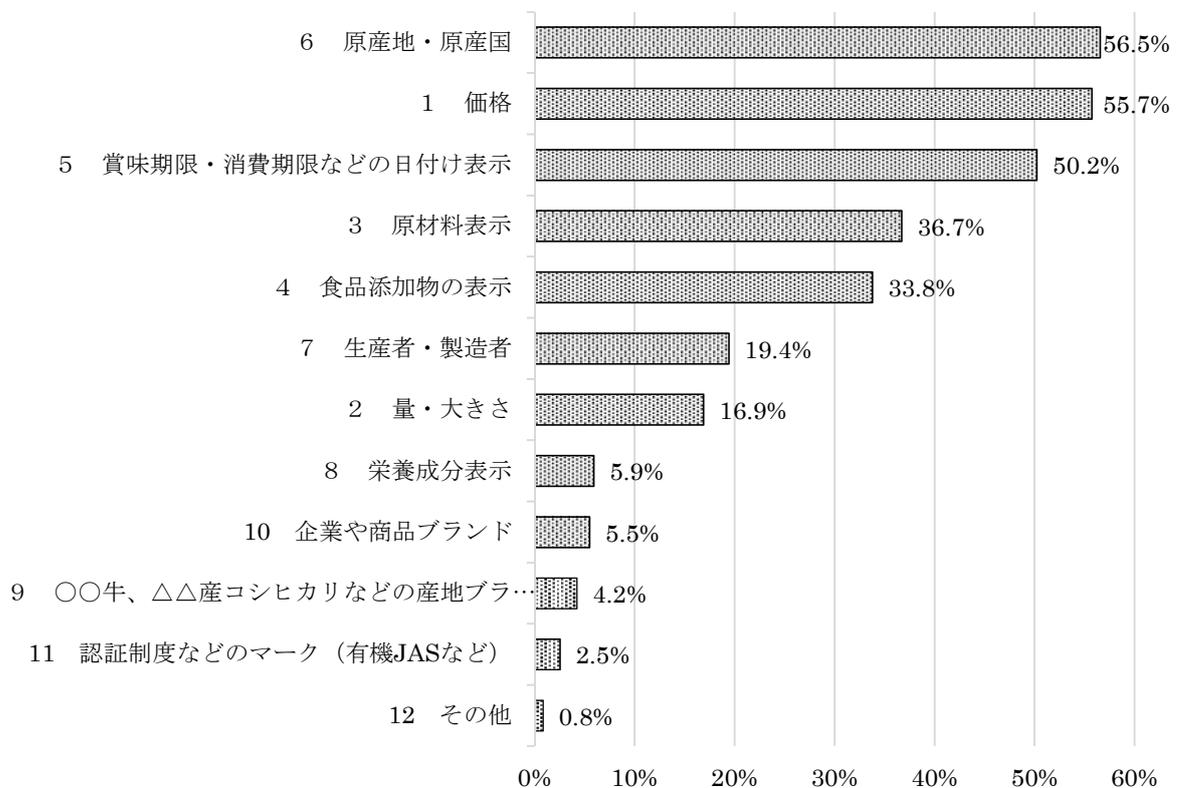


- 年代別でみると「テレビ、ラジオ」は、40代が51.9%、50代が55.0%、60代が57.1%、70代以上が51.6%と幅広い世代で5割を超えている。
- 「新聞」は、60代(61.9%)、70代以上(61.3%)が他の世代と比べ高かった。
- 「インターネット」は、50代(60.0%)、70代以上(54.8%)が他の世代と比べ高かった。

*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問5】あなたが、食品を購入するときに気を付けていることは何ですか。（3つまで選択可）（n=237）

1	価格	55.7%
2	量・大きさ	16.9
3	原材料表示	36.7
4	食品添加物の表示	33.8
5	賞味期限・消費期限などの日付け表示	50.2
6	原産地・原産国	56.5
7	生産者・製造者	19.4
8	栄養成分表示	5.9
9	〇〇牛、△△産コシヒカリなどの産地ブランド	4.2
10	企業や商品ブランド	5.5
11	認証制度などのマーク（有機JASなど）	2.5
12	その他	0.8

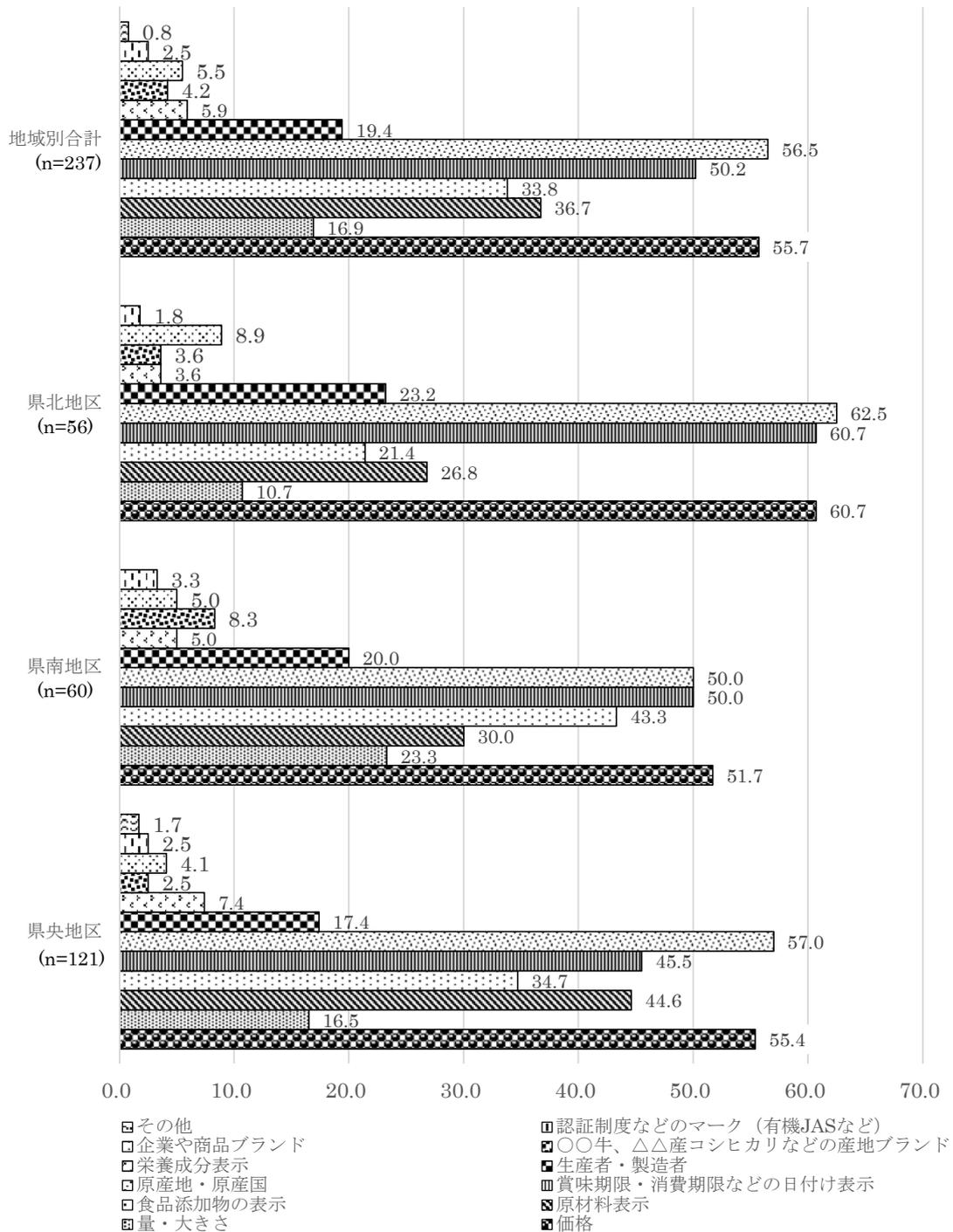


[その他の主な意見]

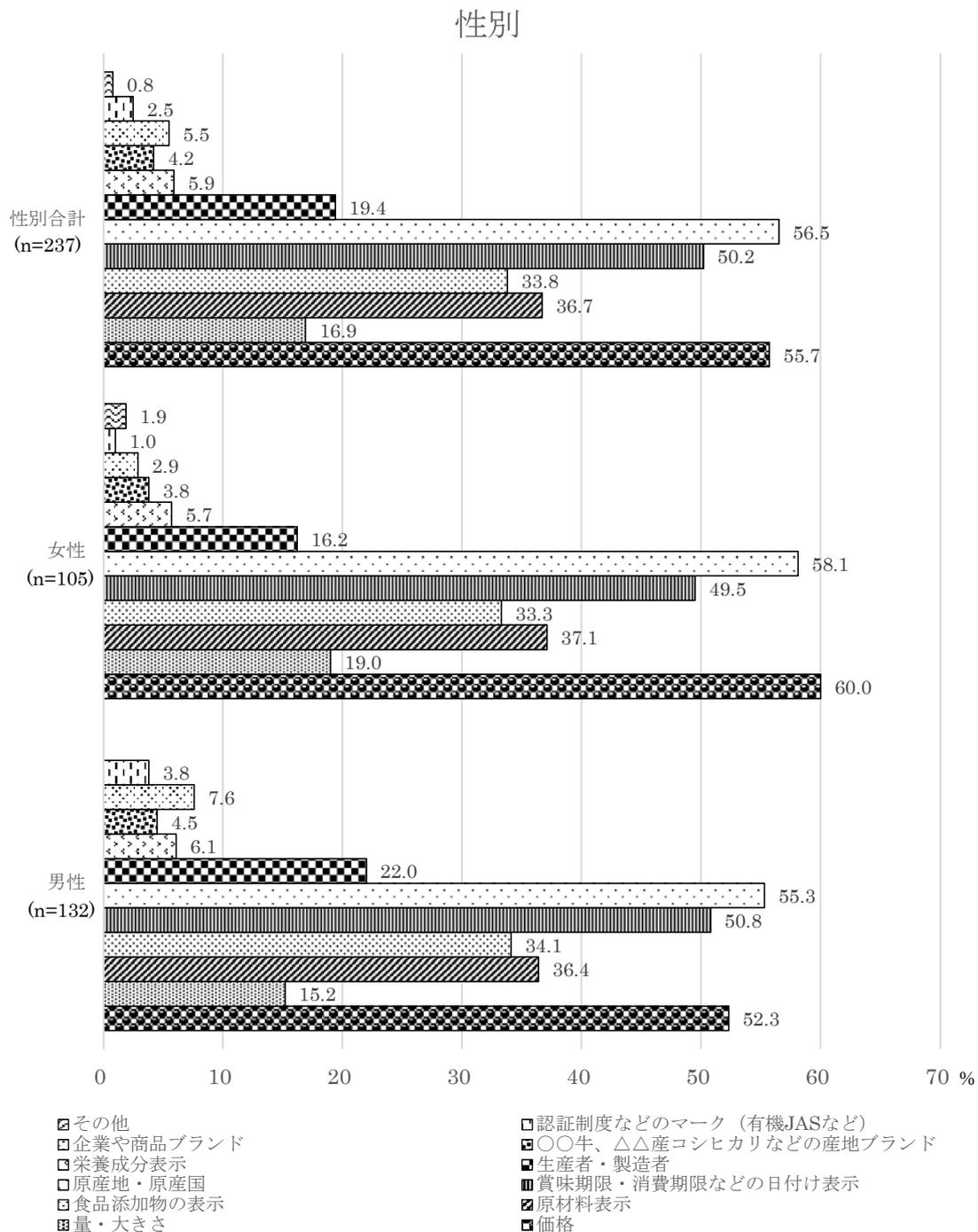
・県産品【1名】

・食品を購入するときに気を付けていることについて、全体でみると「原産地・原産国」が56.5%で最も高く、次に「価格」（55.7%）、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」（50.2%）の順となった。

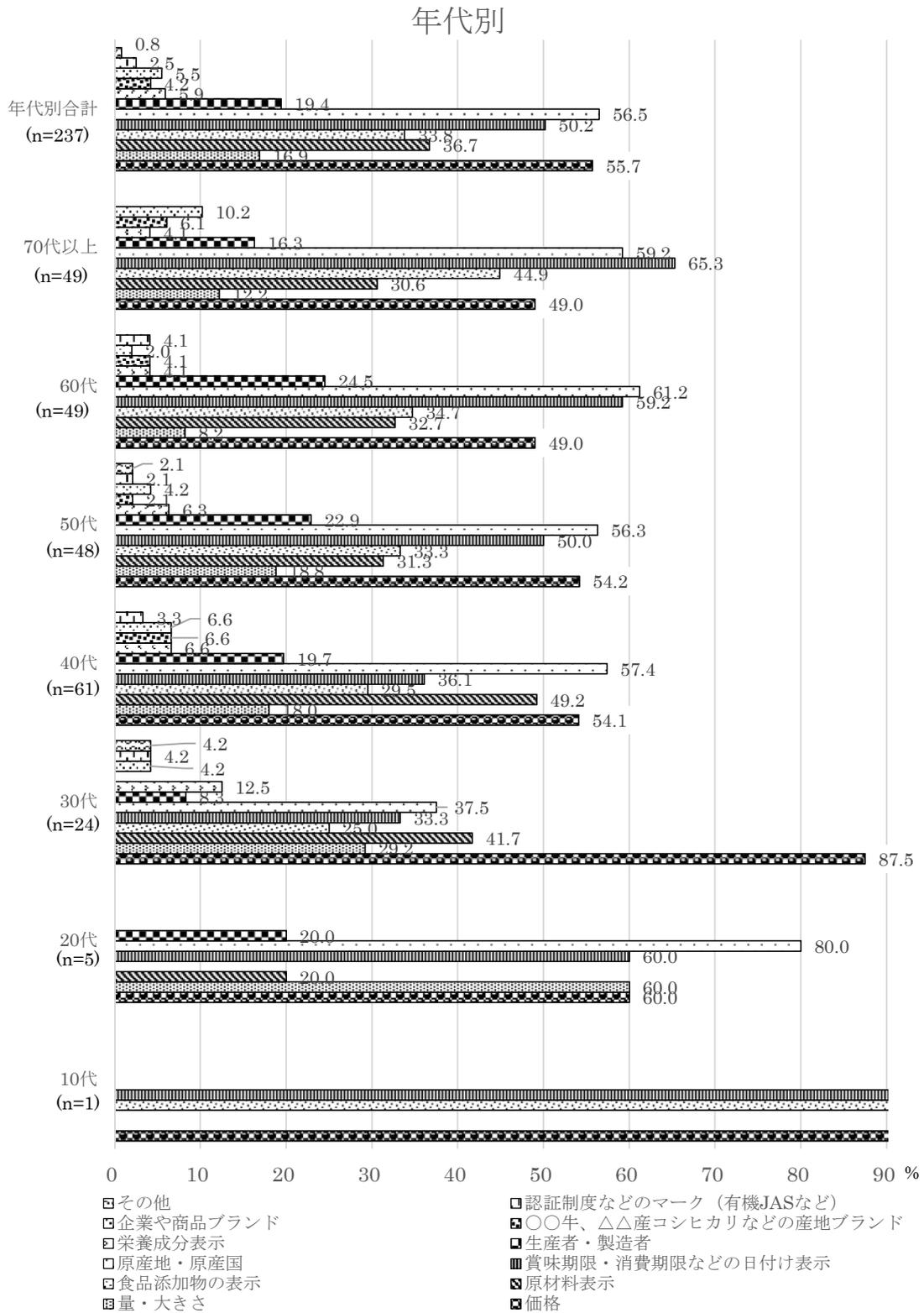
地域別



- ・地域別でみると、県北地区では「価格」が60.7%と、県南地区の51.7%、県央地区の55.4%と比べ高く、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」が60.7%と、県南地区の50.0%、県央地区の45.5%と比べ高く、また「原産地・原産国」が62.5%と、県南地区の50.0%、県央地区の57.0%と比べ高かった。
- ・県南地区では「量・大きさ」が23.3%と、県北地区の10.7%、県央地区の16.5%と比べ高く、「食品添加物の表示」が43.3%と、県北地区の21.4%、県央地区の34.7%と比べ高かった。



・性別で見ると、女性では「価格」が60.0%と、男性（52.3%）と比べ7.7ポイント高かった。

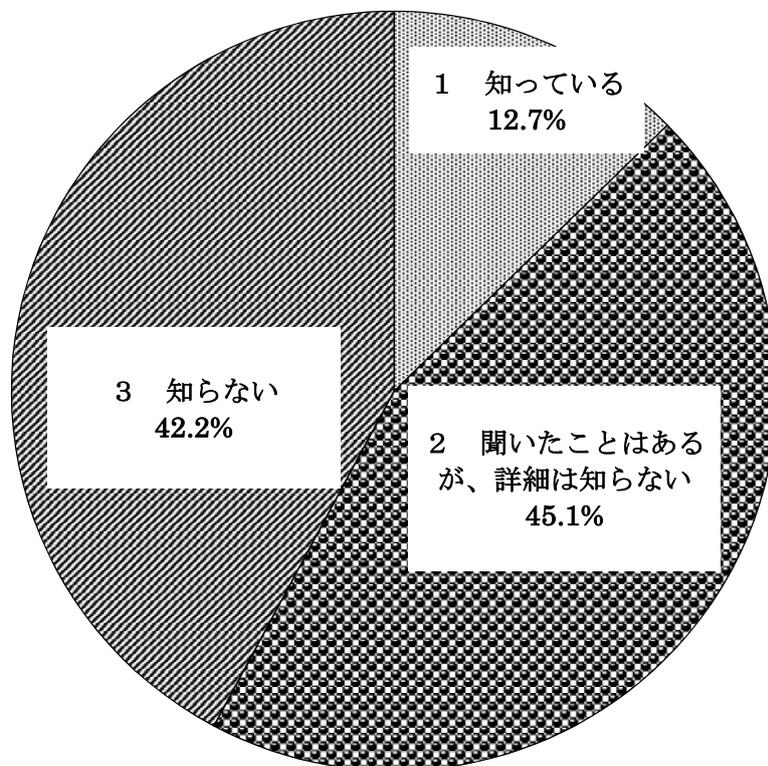


- ・年代別でみると「価格」は、30代（87.5%）が全世代の中で最も高かった。
- ・「原産地・原産国」は、30代（37.5%）が世代中で最も高かった。
- ・「賞味期限・消費期限などの日付け表示」は、30代が33.3%、40代が36.1%、50代が50.0%、60代が59.2%、70代以上が65.3%と年代を増すごとに高くなっている。

*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めませんが、年代別のコメントは控えています。

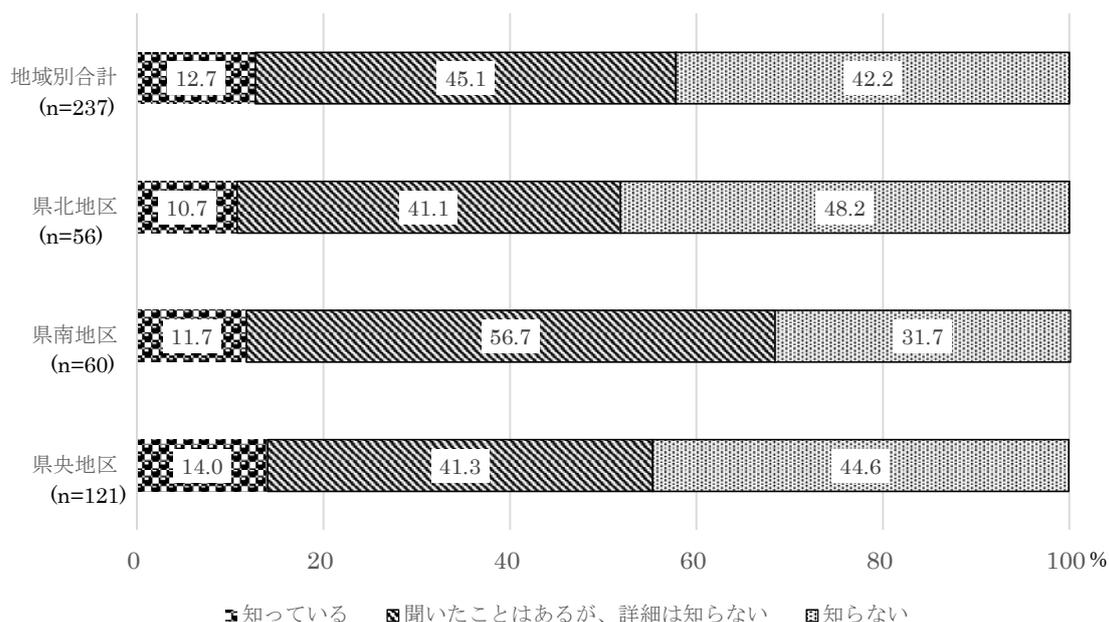
【問6】 農業において、農作物の安全、環境の保全、作業者の安全を確保するため、生産工程を管理する取組（GAP：ギャップ）の導入が進められています。あなたは、生産工程管理（GAP：ギャップ）を知っていますか。（n=237）

1 知っている	12.7%
2 聞いたことはあるが、詳細は知らない	45.1
3 知らない	42.2



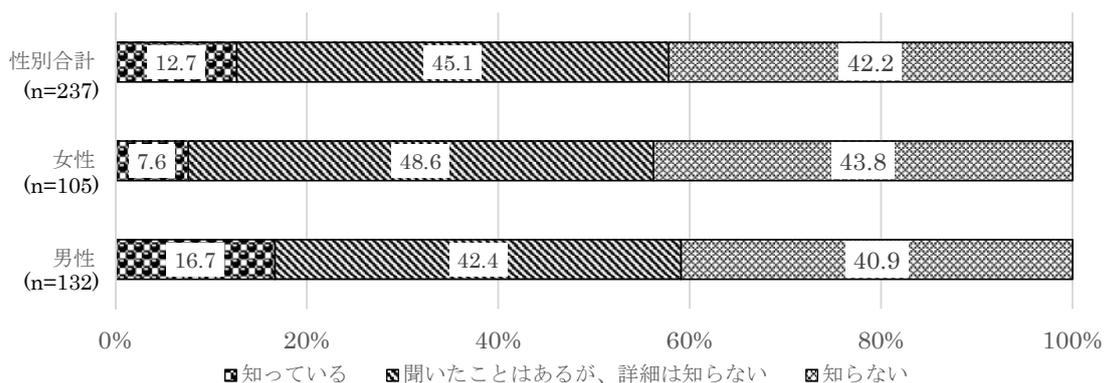
・GAP の認知度について、全体で見ると「聞いたことはあるが、詳細は知らない」が45.1%、「知らない」が42.2%、「知っている」が12.7%であった。

地域別

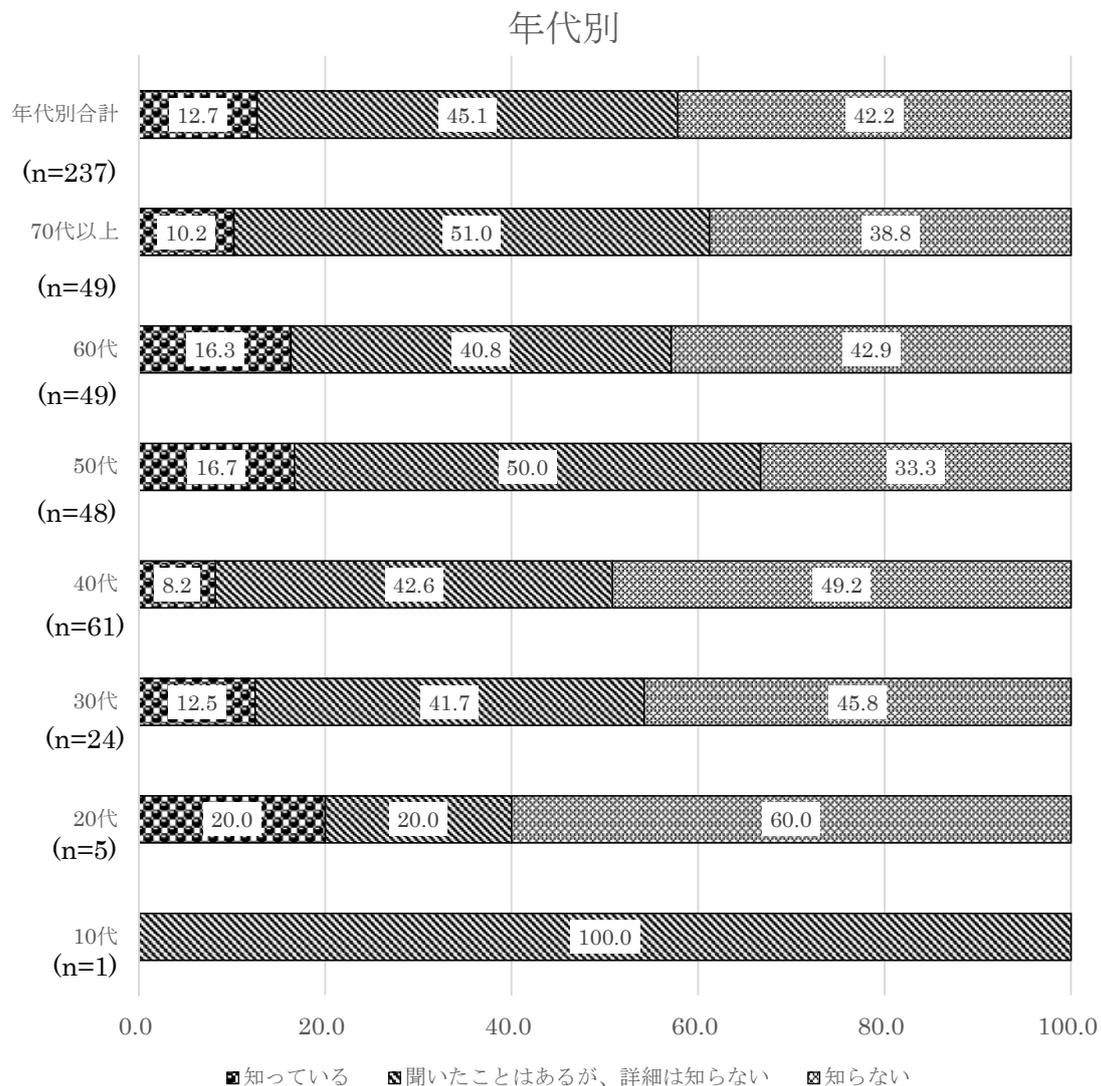


- ・地域別でみると、県央地区では「知っている」が14.0%と、県北地区の10.7%、県南地区の11.7%と比べ高かった。
- ・県南地区では「聞いたことはあるが、詳細は知らない」が56.7%と、県北地区の41.1%、県央地区の41.3%と比べ高かった。
- ・県北地区では「知らない」が48.2%と、県南地区の31.7%、県央地区の44.6%と比べ高かった。

性別



- ・性別でみると、男性では「知っている」が16.7%と、女性（7.6%）と比べ9.1ポイント高かった。
- ・女性では「聞いたことはあるが、詳細は知らない」が48.6%と、男性（42.4%）と比べ6.2ポイント高かった。



- ・年代別でみると「知っている」は、50代が16.7%、60代が16.3%と他の世代と比べ高かった。
- ・「聞いたことはあるが、詳細は知らない」は、50代が50.0%、70代以上が51.0%と他の世代と比べ高かった。
- ・「知らない」は、30代が45.8%、40代が49.2%、60代が42.9%と他の世代と比べ高かった。

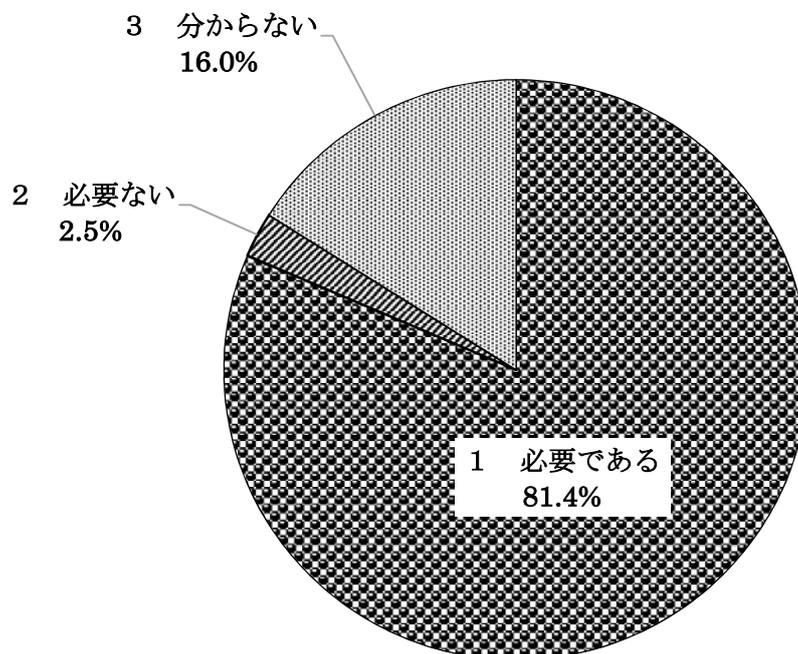
*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。

【問7】農産物の生産工程管理（GAP）は、管理する事項を決め、日頃の作業状況を記録することにより、異物混入や誤った農薬の使用等を防ぎ、安全な農作物の生産につなげるものです。しかし、その分、生産者の作業負担が増します。消費者として、このような取組は必要だと思いますか。（n=237）

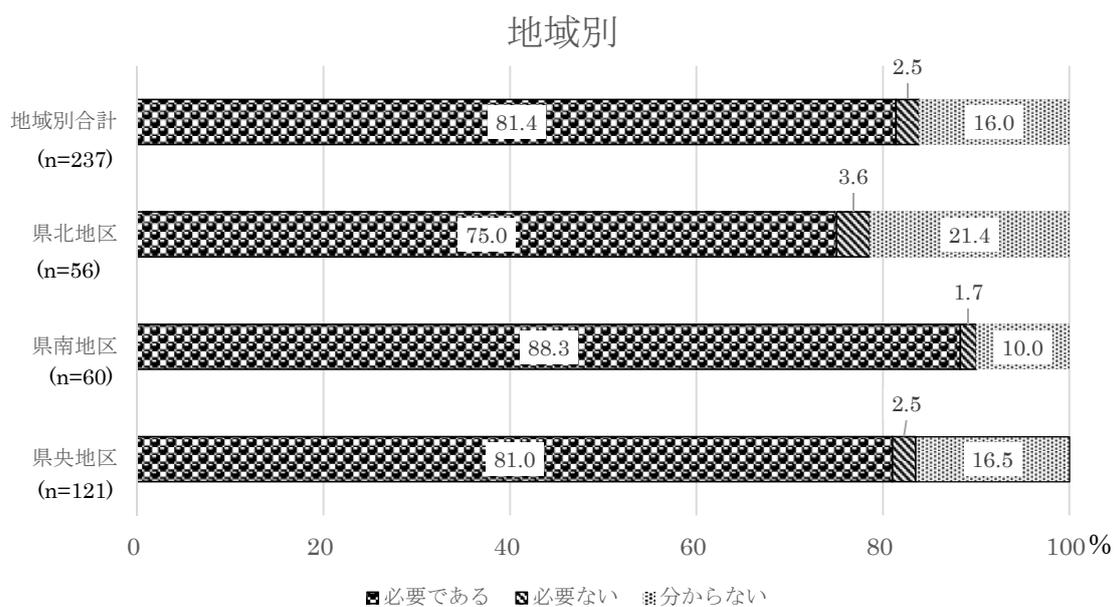
1 必要である	81.4%
2 必要ない	2.5
3 分からない	16.0

※栃木県における GAP の取組の詳細については、県 HP 「GAP（農業生産工程管理）の推進について」で御覧いただけます。

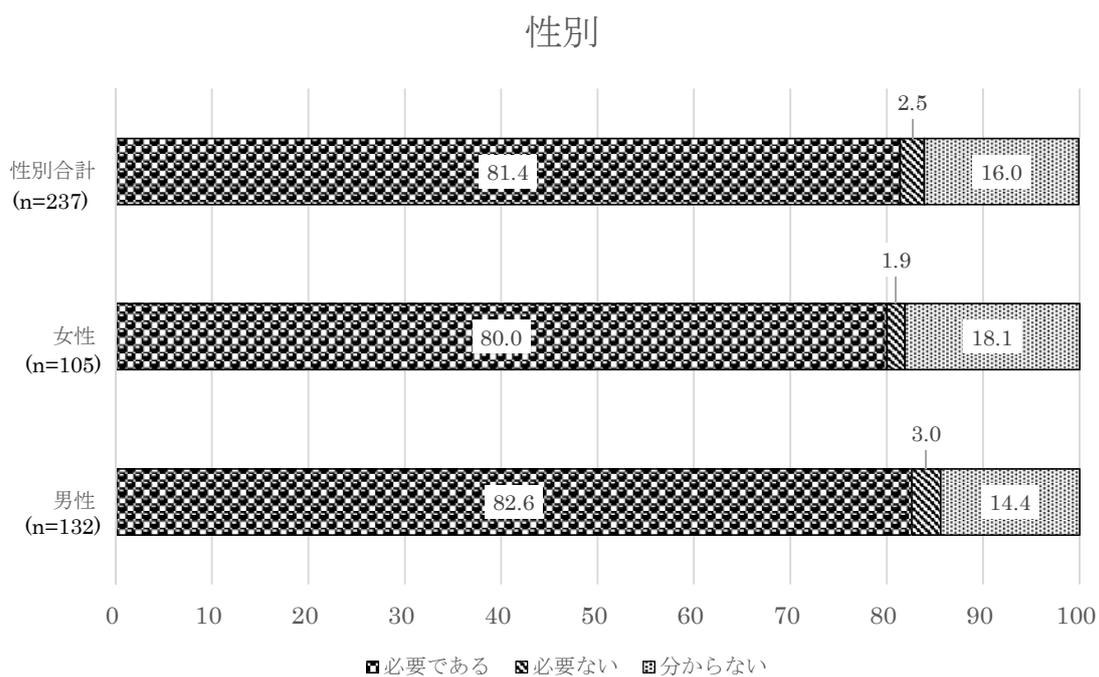
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/work/nougyou/keiei-gijyutsu/1282796125218.html>



・ GAP の必要性について、全体で見ると「必要である」が 81.4%であり、「必要ない」が 2.5%であった。

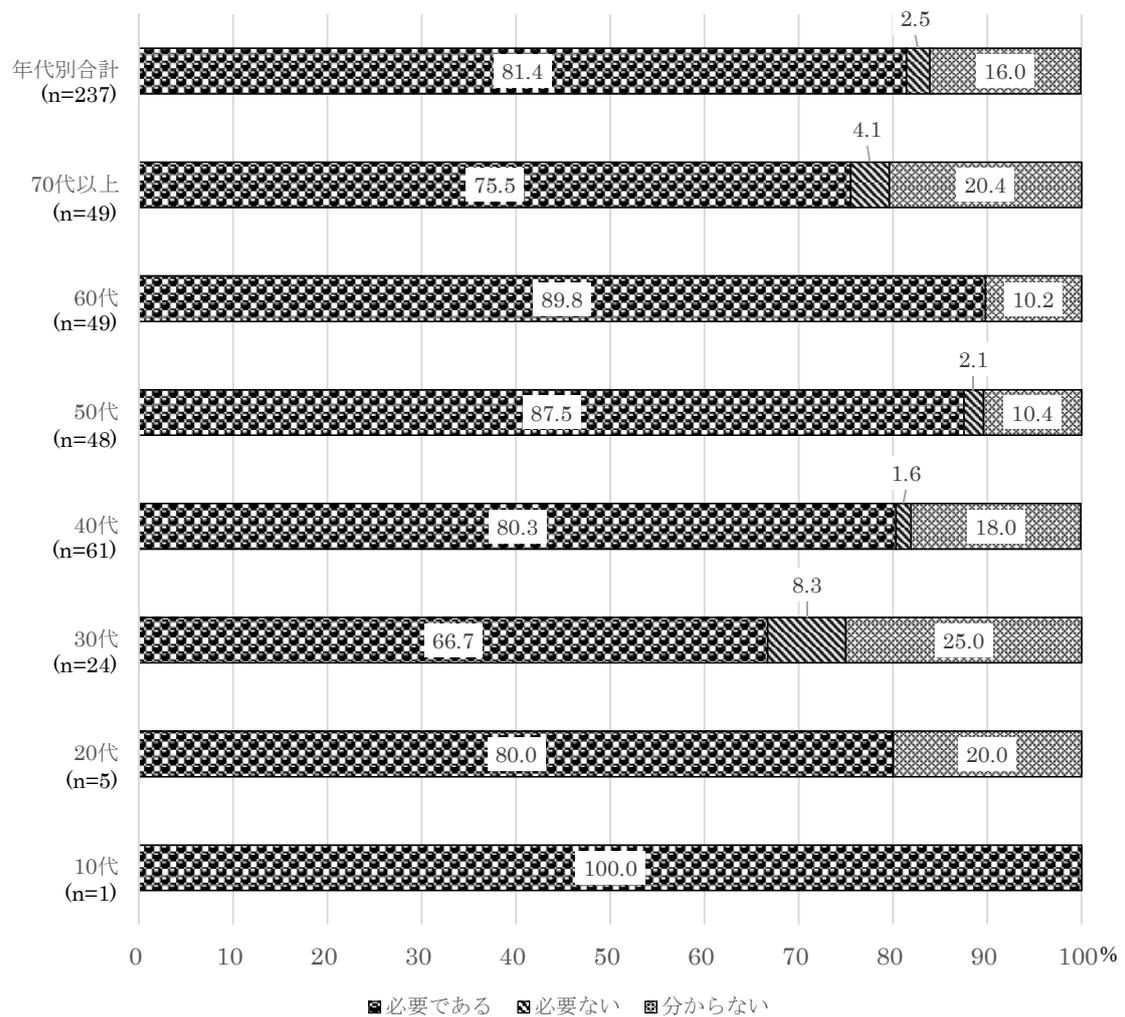


・地域別でみると、県北地区では「必要である」が75.0%と、県南地区の88.3%、県央地区の81.0%と比べ低かった。



・性別でみると、大きな傾向の違いはみられなかった。

年代別



- ・年代別で見ると「必要である」は30代が66.7%と他の世代と比べ低く、「必要ない」が8.3%と他の世代と比べ高かった。
- ・「必要である」が、40代が80.3%、50代が87.5%、60代が89.8%と年代を増すごとに高くなっている。

*10代及び20代は、回答者数が少ないため、全体の結果には含めますが、年代別のコメントは控えています。